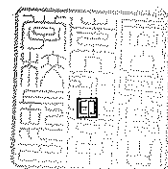


(様式)

平成25年度 津山市立加茂中学校 学校評価書

校長 福見 弘



1 自己評価

I 評価結果

- | | |
|-------------|--|
| 1 基礎学力の充実 | B 「チャレンジテスト」など基礎的な取り組みが継続している |
| 2 豊かな心の育成 | A 「不登校生徒ゼロ」・「道徳教育」充実があった |
| 3 家庭・地域との連携 | A 「開かれた学校づくり」の念頭に、広報活動が充実。
外部指導者の授業・ボランティア活動の進展が顕著だった |

II 分析・改善方策

学校経営目標に対して、取り組めたそれぞれの実践に成果があらわれていることは高く評価できる。何よりも、生徒の不登校がなく、問題行動のほとんどない学校経営ができたことが喜ばしい。アンケートでも中学校の取り組みや指導が理解され、好意的な評価が多い。特に「情報発信」や「基礎学力の定着をはかる取り組み」「思いやりのある生徒の育成」などに高評価はありがたく価値あることである。生徒のボランティアも進み、豊かな心の育成にますます期待する。さらに、小中連携において、基礎学力の定着がなされ「生きる力」の教育を推進したい。

2 学校関係者評価委員会

児玉 収司（学校評議員）
八木恵三子（学校評議員）
寺坂美津子（学校評議員 阿波地区主任児童委員）
平山 淑子（学校評議員 加茂地区主任児童委員）
畑田 泰則（学校評議員 PTA会長）

3 学校関係者評価

基礎基本の定着へ向けてよく取り組めている。生徒も授業へよく集中できている。授業形態で、教え合いの授業も増加していて良い。また、小中の連携が定着してきた。今後さらに中学校教諭による小学校への授業参観が行えるとよい。不登校児がなくなり、生徒一人一人の顔も穏やかで落ち着いている。教育相談を充実させ、いじめのない学校づくりを願う。保護者・地域への学校情報の伝達が効果的に行えており、アンケートにおいても高評価を受けている。親・子・学校の一体感が感じられる。地域へのボランティア活動がさらに進展しており、評価できる。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 小中連携の取り組みを通じて、授業規律のある授業から学力の向上をめざしたい。そのため、すべての教科で統一した学習規律を再確認する。さらに家庭学習の定着をねらい、学習習慣を身につけさせたい。
- 研究テーマの「表現力」については継続し、授業改革を念頭に校内研修でも取り組む。全教員が研究授業もしくは公開授業を行い、お互いに研鑽させたい。
- 人権意識の高揚を図り、よりよい人間関係作りをすすめる。自尊感情を醸成し、自己有用感や達成感を得られるよう、道徳その他の活動、学校行事、ボランティア活動等を展開してゆく。
- 開かれた学校づくりはさらに推進し、地域の協力・支えのある学校経営をめざす。そのための「情報発信」はさらに積極的にすすめたい。